

サステナビリティへの基盤

経営環境の変化に応じて
持続的に進化する企業を目指して



2021年度から2025年度を対象とした「環境基本計画2025」を策定、その計画に基づく年度目標「環境アクションプラン2021」を設定し、グループ一体となって、環境保全・改善に取り組みました。

環境経営の推進

当社グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5カ年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。

環境基本計画2025では、環境方針の柱である「脱炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標(アクションプラン)を立て、実績を評価しています。

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指します。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

脱炭素社会の実現に取り組みます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組みます。

循環型社会の形成に取り組みます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制(リデュース)、循環資源の再利用(リユース)及び再生利用(リサイクル)に取り組みます。

自然と共生する社会の推進に取り組みます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組みます。

取り組み事例掲載ページ

- P.18 環境配慮と道路保全の両立
- P.28 自然環境に配慮した道づくり
- P.36 お客さまと、環境とともに

地域の環境

つなぎの森

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。当社グループの社員が自治体や森林組合の皆さまと草刈りや植樹を行い、地域との交流やCO₂吸収源の確保に貢献するとともに、社員が環境共生の大切さを学ぶ機会となっています。



つなぎの森 四国 大豊町

地域の清掃美化活動

当社グループでは、地域社会への参加の一環として、清掃美化活動に参加しています。2021年度は、約800回、約8,600人が参加しました。これからも、地域を愛し、地域とともに生きるグループを目指していきます。



ビーチクリーン活動(西日本高速道路総合サービス沖繩(株)及びMANATII主催)

環境基本計画2025				アクションプラン2021			
実行目標計画の取り組み項目	活動内容	指標	目標	計画	実績		
脱炭素社会の実現	円滑な交通の確保	高速道路ネットワークの整備	新規高速道路のネットワーク整備を実施する	開通延長	開通延長 58km	累計16km	累計16km
	省エネルギーの推進	電気使用量の削減	オフィスの電気使用量を削減する	電気使用量	オフィスの電気使用量を5%削減する(2020年度比) 2020年度実績…155kWh/m ²	1.0%削減(2020年度比)	1.2%増加(2020年度比)
			道路施設の維持管理に要する電気使用量を削減する	電気使用量	道路営業延長あたりの電気使用量を5%削減する(2020年度比) 単位: kWh(電気使用量)/車線km(車線延長)	1.0%削減(2020年度比)	1.5%削減(2020年度比)
		ガス使用量の削減	オフィスのガス使用量を削減する	ガス使用量(都市ガス+LPGガス)	ガス使用量を抑制する(2020年度比) 2020年度実績…0.34m ³ /m ²	ガス使用量を抑制する(2020年度比)	1.7%減少(2020年度比)
	二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO ₂ の固定	新設料金所等に太陽光発電を導入する	導入量	新設料金所等に太陽光発電を70kW設置する	累計20kW	累計20kW
			盛土のり面等の樹林化整備を推進する	整備面積	盛土のり面等の樹林化整備を52ha実施する	累計20ha	累計16ha
	技術開発	再生アスファルト混合物の適用性を検討する	再生アスファルト混合物の適用性を検討する	—	再生アスファルト混合物の試験施工の実施等、適用可能箇所での高速道路舗装への活用を図る	再生アスファルト混合物の試験施工を実施	再生アスファルト混合物の試験施工を実施
			省CO ₂ に資する材料の適用性を検討する	—	省CO ₂ に資する材料の適用性を検討する	アクションプラン2022新規指標	
		脱炭素社会を実現するためクリーンエネルギー車の普及に対応したインフラ環境整備を推進する	脱炭素社会を実現するためクリーンエネルギー車の普及に対応したインフラ環境整備を推進する	—	エネルギー供給システムに対応した、適切なインフラの整備	電気自動車用急速充電設備を新たに4基増設	電気自動車用急速充電設備を2基(4口)増設
			グリーン調達	グリーン調達の推進	グリーン調達の推進	グリーン調達の推進	グリーン調達の推進
循環型社会の形成	環境に配慮した製品・資材等の調達の推進	工事用資材における特定調達物品等の調達率の向上を目指す	調達率	品目毎の調達率の向上を目指す	同左	調達可能な品目について調達を実施	
		事務用品における特定調達物品等の調達率100%を目指す	調達率	特定調達物品等の調達率100%を目指す(規格等により適合商品がない場合を除く)	同左	調達可能な事務用品については100%調達	
	廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	一般廃棄物(資源となるものを除く)の排出量を減量する	—	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める 2020年度排出量…4,698kg(本社)	同左	一般廃棄物の排出量を概ね目標と同程度とし、分別回収に努めた 2021年度排出量…2,881kg(本社)	
		植物系廃棄物(草刈等)の再生資源化を推進する	再生資源化率	植物発生材の有効活用率97%を目指す	95.0%	96.8%	
		建設発生土の再利用を推進する	再利用率	建設発生土のリサイクル率80%を目指す	80.0%	89.1%	
		アスファルトコンクリート塊の再生資源化を推進する	再生資源化率	アスファルトコンクリート塊のリサイクル率99%を目指す	99.0%	99.9%	
		コンクリート塊の再生資源化を推進する	再生資源化率	コンクリート塊のリサイクル率99%を目指す	99.0%	100.0%	
		休憩施設での発生ゴミの再生資源化を推進する	再生資源化率	発生ゴミのうち、再資源可能なものについて再生資源化率100%を目指す	100.0%	100.0%	
		建設発生木材の再生資源化を推進する	再生資源化率	建設発生木材のリサイクル率97%を目指す	95.0%	96.1%	
		建設汚泥の再生資源化を推進する	再生資源化率	建設汚泥のリサイクル率95%を目指す	90.0%	90.7%	
コピー用紙の使用量を削減する	—	2021年度を基準としてコピー用紙使用量の削減率10%を目指す	アクションプラン2022新規指標				
社会の推進	自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する	設置・改良延長	既設路線の動物侵入防止柵を270km設置・改良する	54km	61km
		地域性苗木を設置する	設置本数	地域性苗木を約5万本設置する	累計1.5万本	累計1.65万本	
生活環境の保全	道路交通騒音対策	高機能舗装の敷設を推進する	敷設延長	高機能舗装を455車線・km敷設する	87車線・km	88車線・km	
		遮音壁の設置を推進する	設置延長	遮音壁を15km設置	累計0.5km	累計1.4km	

(一部抜粋)